

株式会社アイエスエイ

## メール受信でのスクリプト実行の方法

2020年9月8日

## 目次

Outlook の場合 .....	1
1. Outlook の仕分けルールの追加 .....	1
2. usbux でコマンド実行する内容をバッチファイルとして作成 .....	4
3. Outlook でマクロを作成 .....	4
4. Outlook で自動仕分けルールを作成する .....	6
Becky! の場合 .....	13
1. usbux でコマンド実行する内容をバッチファイルとして作成 .....	13
2. Becky! の仕分けルールの追加 .....	13

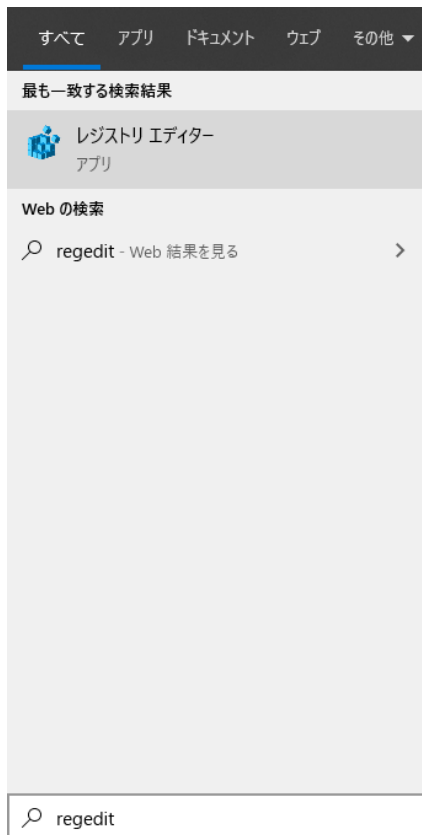
## Outlook の場合

### 1. Outlook の仕分けルールの追加

Outlook の仕分けルール（自動仕分けウィザード）に、「スクリプトを実行する」を追加します。

#### ① レジストリエディタの起動

Windows の [スタート] ボタンをクリック後に “regedit” と入力し、検索結果の regedit をクリックします。



#### ② 以下のキーを登録します。

キー	HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Office¥xx.0¥Outlook¥Security
名前	EnableUnsafeClientMailRules
種類	REG_DWORD
値	1 (有効)

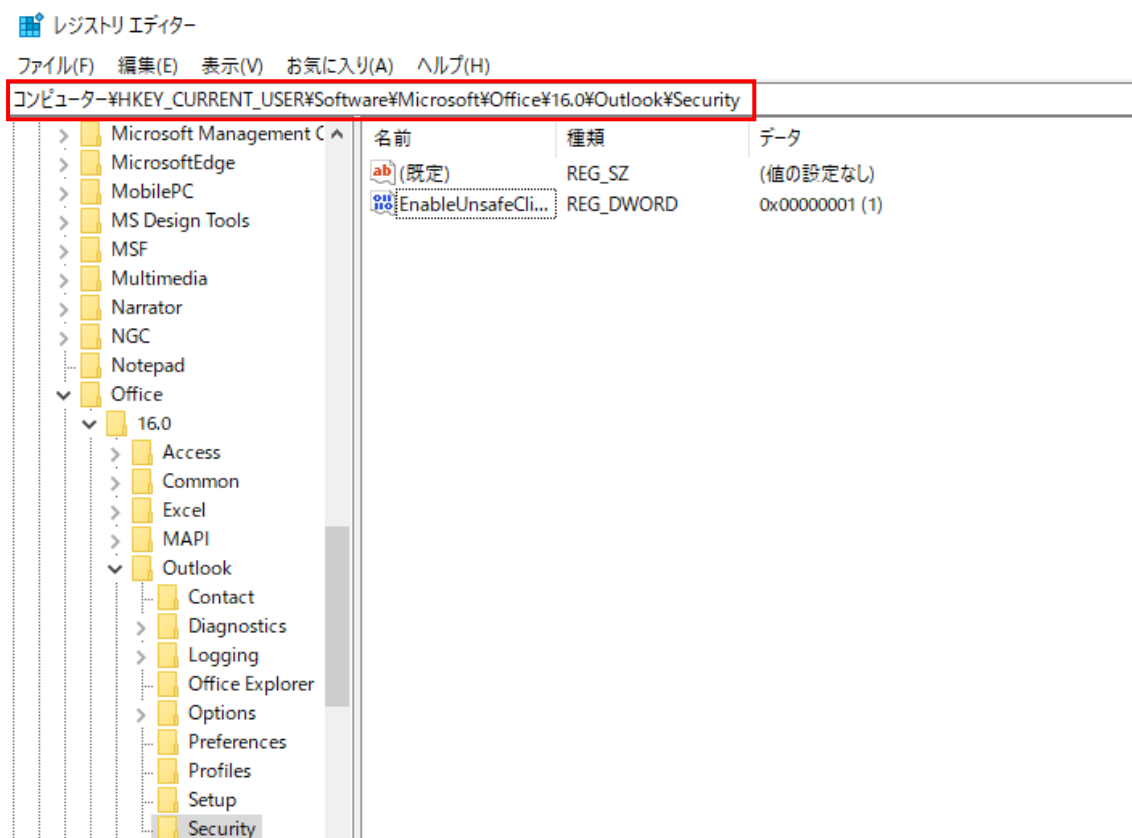
※レジストリ キーのパス中にある xx は以下の通りです。Security のキーが無い場合はキー作成します。

Outlook 2010 の場合 : 14

Outlook 2013 の場合 : 15

Outlook 2016 の場合 : 16

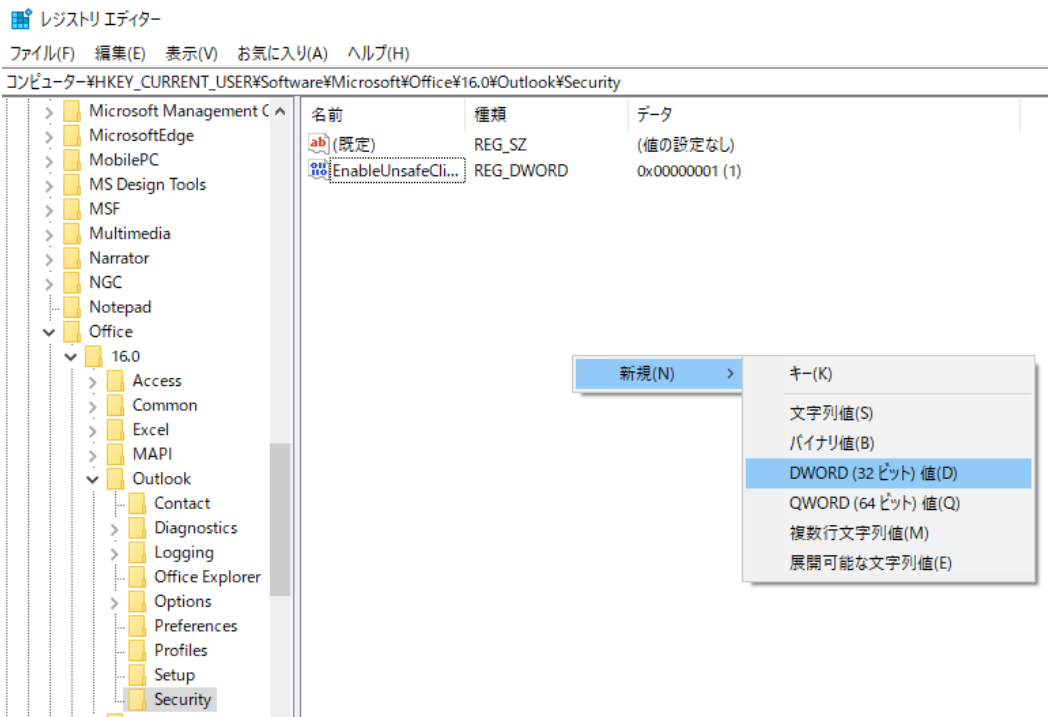
Outlook 2019 の場合 : 16



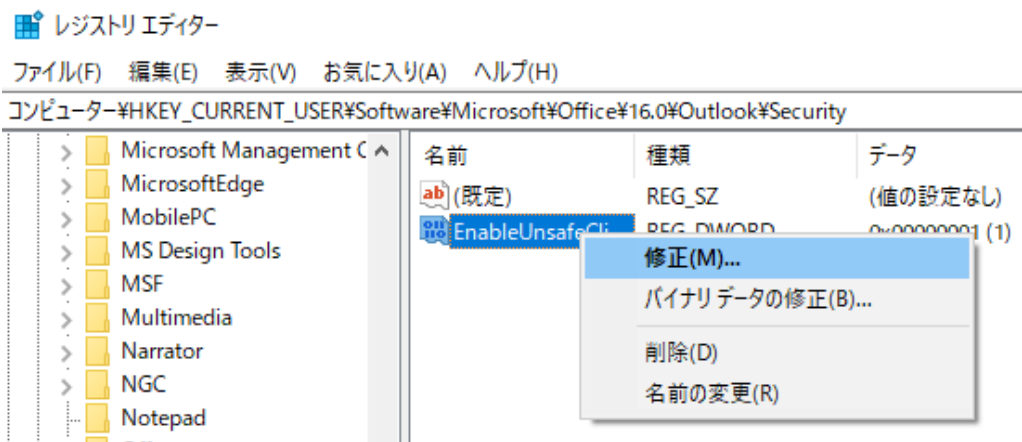
<手順>

レジストリエディタの赤枠部分に”キー”を入力して Enter  
※”xx“の部分は上の 2 桁の数字を入力

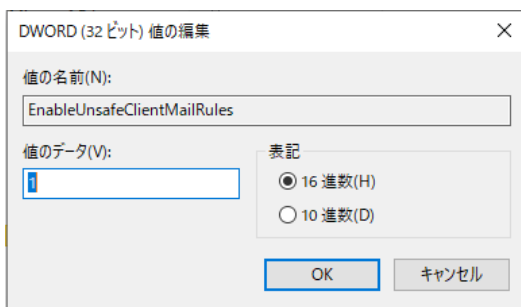
- ✓ 現れたフォルダ内で右クリック
- ✓ 「新規」⇒「DWORD (32 ビット) 値(D)」を選択
- ✓ 名前を「EnableUnsafeClientMailRules」とする



- ✓ 作成したファイルを右クリックして、「修正」を選択



- ✓ 値のデータを「1」にして OK



- ✓ Outlook を起動していたら Outlook の再起動を行う

これが完了すれば、Outlook の仕分けルールに新たに、「アプリケーションを開始する」、「スクリプトを実行する」が追加されています。

## 2. usbux でコマンド実行する内容をバッチファイルとして作成

テキストエディタなどでメール受信トリガで実行するコマンドをバッチファイルとして作成します。

例) メール受信で赤ランプを点灯する場合。

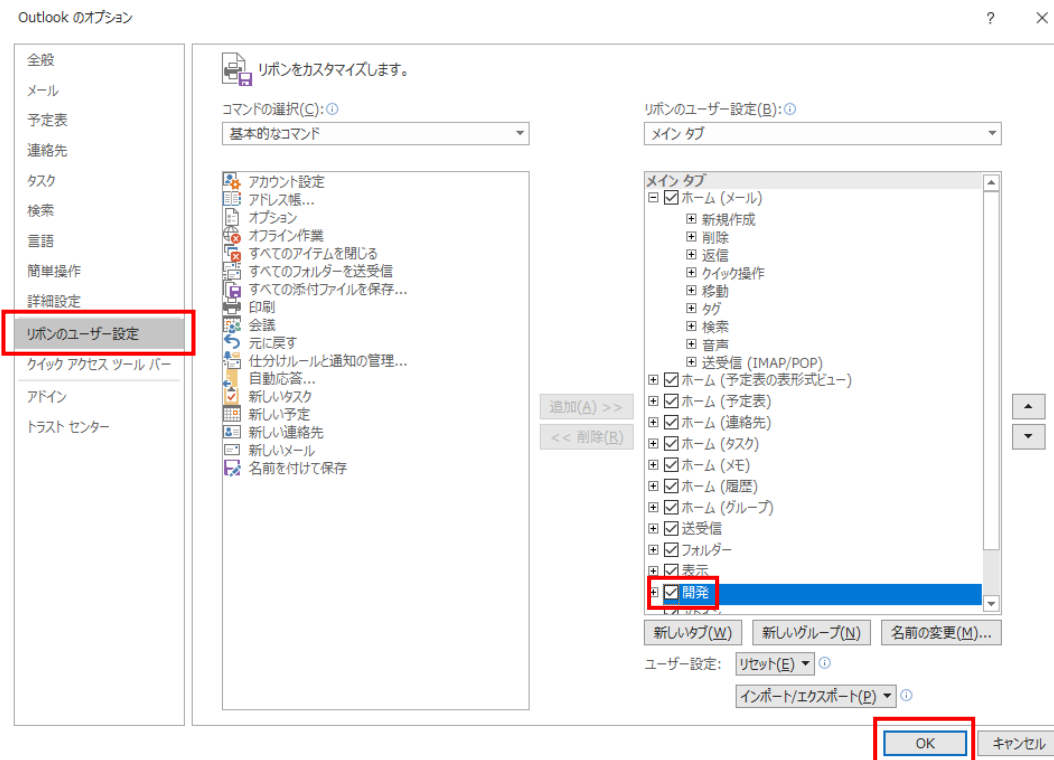
```
usbux.exe -c 4 acop 1000
```

(COM ポート 4 の場合)

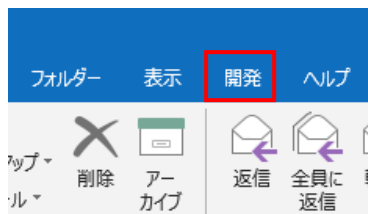
## 3. Outlook でマクロを作成

次に、Outlook でマクロを作成します。

- ✓ Outlook の「ファイル」から、「オプション」をクリック
- ✓ 「リボンのユーザー設定」で「開発」にチェックマーク (☑) を付けて OK



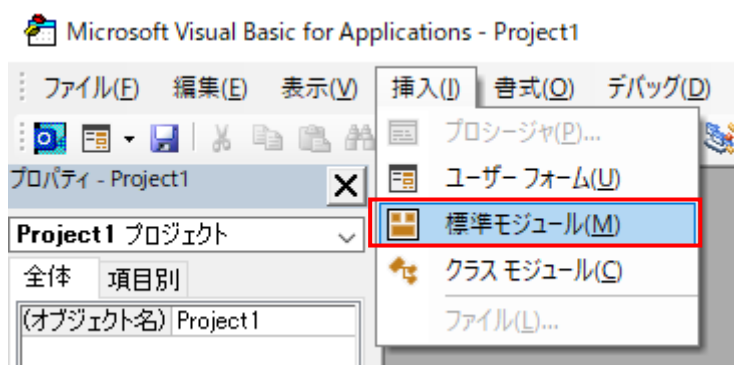
- ✓ 「開発」タブが作成されたことを確認する



- ✓ Outlook の画面で「Alt+F11」を入力するか、開発タブで「Visual Basic」をクリックする



- ✓ VBA の画面が立ち上がるので、挿入タブから「標準モジュール」を選択



- ✓ 以下のマクロを入力する

※” CustomMailMessageRule”の部分に好きな名前を入力する（後に”スクリプト”として選択する）

```
Sub CustomMailMessageRule(Item As Outlook.MailItem)
```

```
Shell("この赤字の部分に、起動させたいバッチファイルのファイルパス名を入力する")
```

```
End Sub
```

下の例では、既にバッチファイル(action.bat)のファイルパス名を入力した状態になっています。

```
Project1 - Module1 (コード)
(General)
Sub CustomMailMessageRule(Item As Outlook.MailItem)
  Shell ("C:%Users%hoge%Documents%action.bat")
End Sub
```

複数の動作を行いたい場合は、同様にして複数のマクロを作成していきます。

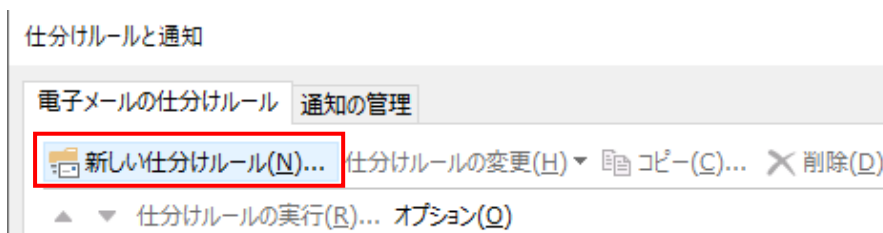
#### 4. Outlook で自動仕分けルールを作成する

次に、Outlook で自動仕分けルールを作成します。

- ✓ Outlook の「ファイル」から、「仕分けルールと通知」を選択

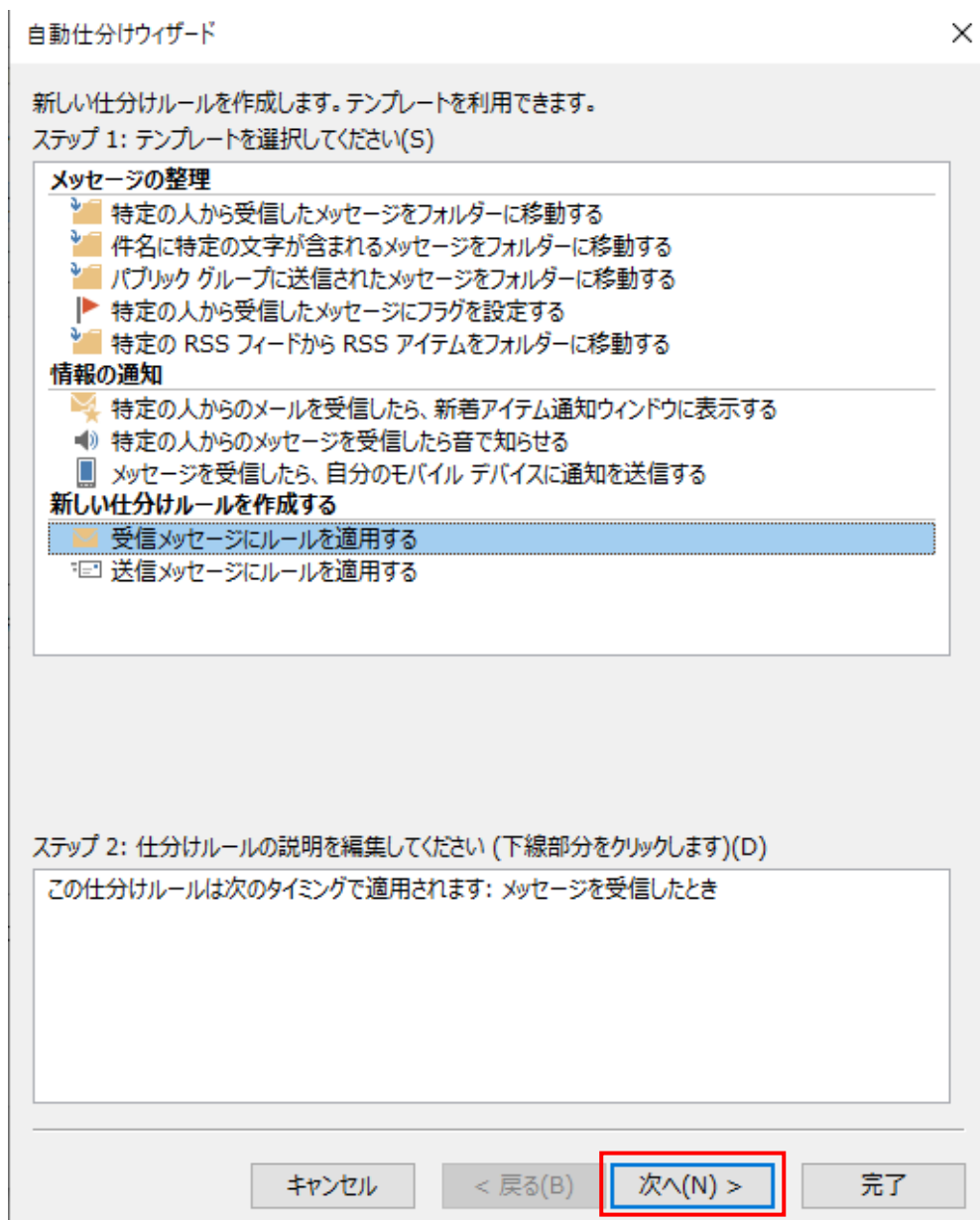


- ✓ 「新しい仕分けルール」をクリック





- ✓ 「受信メッセージにルールを適用する」を選択し、次へ



- ✓ [件名]に特定の文字が含まれる場合をクリックし、画面下部の特定の文字をクリック  
※今回は件名を選択していますが、“本文”や“差出人”を選択することも可能です

条件を指定してください

ステップ 1: 条件を選択してください(C)

- [差出人] が 名前/パブリックグループ の場合
- [件名] に 特定の文字 が含まれる場合
- 指定された アカウントを経由した場合
- 自分だけに送信された場合
- [宛先] に自分の名前がある場合
- 重要度が (重要度) の場合
- 秘密度が (秘密度) の場合
- 次のフラグが付いている場合: (フラグの内容)
- [ C C ] に自分の名前がある場合
- [宛先] または [ C C ] に自分の名前がある場合
- [宛先] に自分の名前がない場合
- [宛先] または [ C C ] が 名前/パブリックグループ の場合
- 本文に 特定の文字 が含まれる場合
- [件名] が本文に 特定の文字 が含まれる場合
- メッセージ ヘッダーに 特定の文字 が含まれる場合
- 受信者のアドレスに 特定の文字 が含まれる場合
- 差出人のアドレスに 特定の文字 が含まれる場合
- 分類項目が (分類項目) の場合

ステップ 2: 仕分けルールの説明を編集してください (下線部分をクリックします)(D)

この仕分けルールは次のタイミングで適用されます: メッセージを受信したとき  
 [件名] に 特定の文字 が含まれる場合

キャンセル

&lt; 戻る(B)

次へ(N) &gt;

完了

- ✓ 文字の指定で、件名を入力して「追加」後に OK をクリック

文字の指定

[件名] に含まれる文字(W):

○○○

追加(A)

特定の文字の一覧(S):

削除(R)

OK

キャンセル

✓ 次へをクリック

自動仕分けウィザード

×

条件を指定してください

ステップ 1: 条件を選択してください(C)

- [差出人]が 名前/パブリックグループ の場合
- [件名]に 特定の文字 が含まれる場合
- 指定された アカウントを経由した場合
- 自分だけに送信された場合
- [宛先]に自分の名前がある場合
- 重要度が (重要度) の場合
- 秘密度が (秘密度) の場合
- 次のフラグが付いている場合: (フラグの内容)
- [C C]に自分の名前がある場合
- [宛先]または[C C]に自分の名前がある場合
- [宛先]に自分の名前がない場合
- [宛先]または[C C]が 名前/パブリックグループ の場合
- 本文に 特定の文字 が含まれる場合
- [件名]が本文に 特定の文字 が含まれる場合
- メッセージヘッダーに 特定の文字 が含まれる場合
- 受信者のアドレスに 特定の文字 が含まれる場合
- 差出人のアドレスに 特定の文字 が含まれる場合
- 分類項目が (分類項目) の場合

ステップ 2: 仕分けルールの説明を編集してください(下線部分をクリックします)(D)

この仕分けルールは次のタイミングで適用されます:メッセージを受信したとき  
[件名]に ○○○ が含まれる場合

キャンセル

< 戻る(B)

次へ(N) >

完了

- ✓ 「スクリプトを実行する」にチェックを入れる
- ✓ 画面下部の「スクリプト」(青字)をクリック

自動仕分けウィザード

×

メッセージに対する処理を選択してください

ステップ 1: 処理を選択してください(C)

- 指定 フォルダへ移動する
- 分類項目 (分類項目) を割り当てる
- 削除する
- 削除する (復元できません)
- コピーを 指定 フォルダへ移動する
- 名前/パブリックグループ へ転送する
- 添付して 名前/パブリックグループ に転送する
- 特定のテンプレート を使って返信する
- メッセージ フラグ 期限 を設定する
- メッセージ フラグを消去する
- メッセージの分類項目を消去する
- (重要度) を設定する
- 印刷する
- (音) を鳴らす
- アプリケーション を開始する
- 開封済みとしてマークする
- スクリプト** を実行する
- 仕分けルールの処理を中止する

ステップ 2: 仕分けルールの説明を編集してください (下線部分をクリックします)(D)

この仕分けルールは次のタイミングで適用されます: メッセージを受信したとき  
[件名] に ○○○ が含まれる場合  
さらにこのコンピューターで送受信を行った場合のみ  
スクリプト を実行する

キャンセル

< 戻る(B)

次へ(N) >

完了

- ✓ 先程作成したマクロを選択して、OK

スクリプトの選択

スクリプト(S):

Project1.CustomMailMessageRule

OK 閉じる

- ✓ 完了する

自動仕分けウィザード

×

メッセージに対する処理を選択してください

ステップ 1: 処理を選択してください(C)

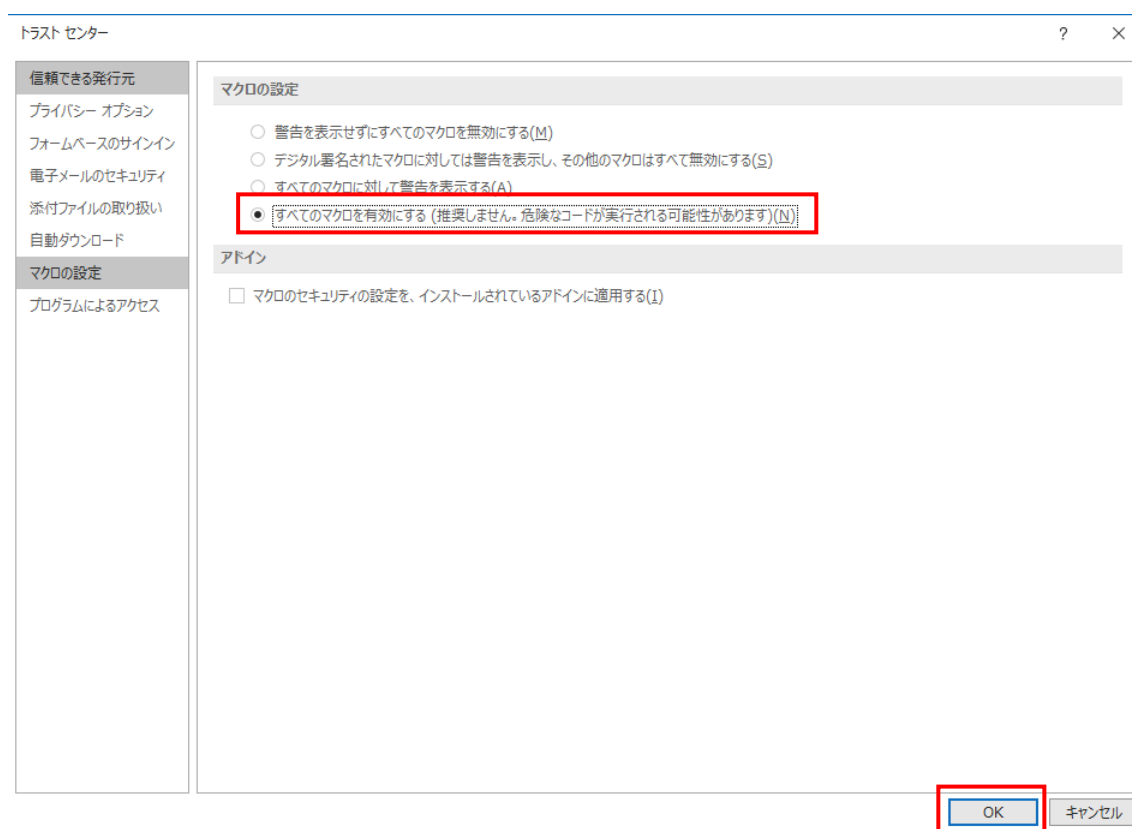
- スクリプトを実行する
- 指定 フォルダーへ移動する
- 分類項目 (分類項目) を割り当てる
- 削除する
- 削除する (復元できません)
- コピーを 指定 フォルダーへ移動する
- 名前/パブリックグループ へ転送する
- 添付して 名前/パブリックグループ に転送する
- 特定のテンプレート を使って返信する
- メッセージ フラグ 期限 を設定する
- メッセージ フラグを消去する
- メッセージの分類項目を消去する
- (重要度) を設定する
- 印刷する
- (音) を鳴らす
- アプリケーション を開始する
- 開封済みとしてマークする
- 仕分けルールの処理を中止する

ステップ 2: 仕分けルールの説明を編集してください (下線部分をクリックします)(D)

この仕分けルールは次のタイミングで適用されます: メッセージを受信したとき  
[件名]に ○○○ が含まれる場合  
さらにこのコンピューターで送受信を行った場合のみ  
Project1.CustomMailMessageRule を実行する

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

- ✓ マクロのセキュリティで「すべてのマクロを有効にする」を選択



※「デジタル署名されたマクロに対しては警告を表示し、その他のマクロは全て無効にする」を選択する場合は、マクロを作成する際にデジタル署名を作成してからマクロを作成してください。

以上の設定を行えば、メール受信をトリガにして、usbux でコマンド実行する事ができます。

## Becky!の場合

1. usbux でコマンド実行する内容をバッチファイルとして作成

テキストエディタなどでメール受信トリガで実行するコマンドをバッチファイルとして作成します。

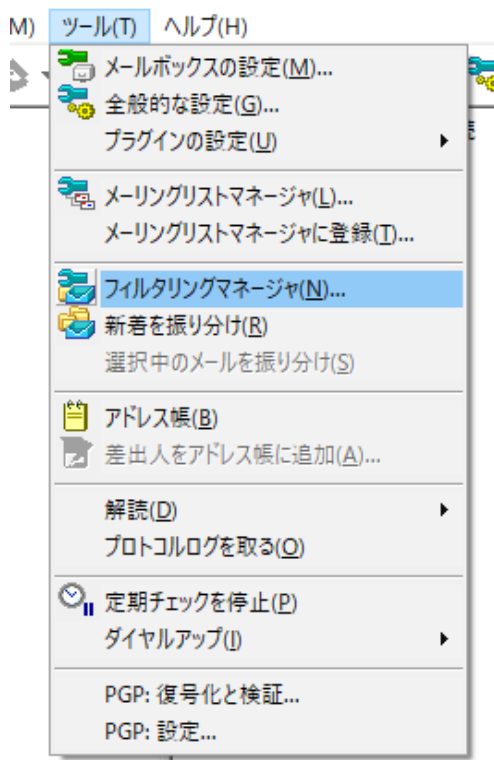
例) メール受信で赤ランプを点灯する場合。

```
usbux.exe -c 4 acop 1000
```

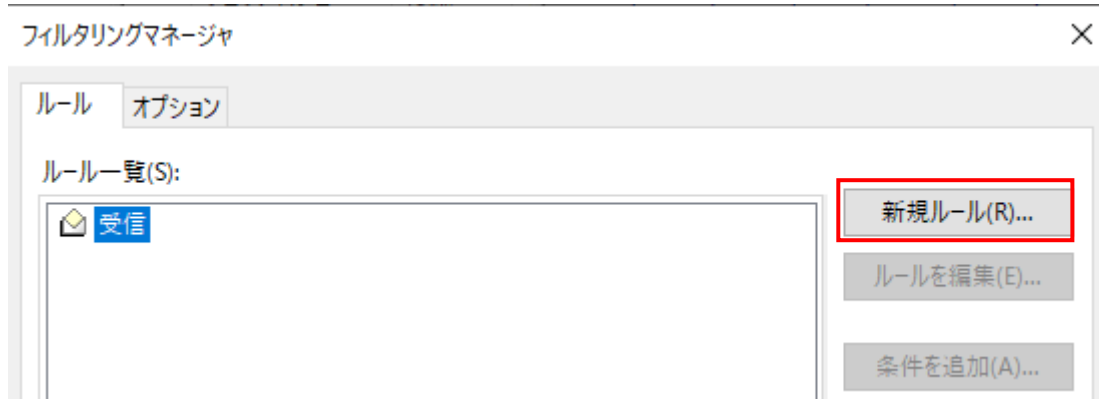
(COM ポート 4 の場合)

2. Becky!の仕分けルールを追加

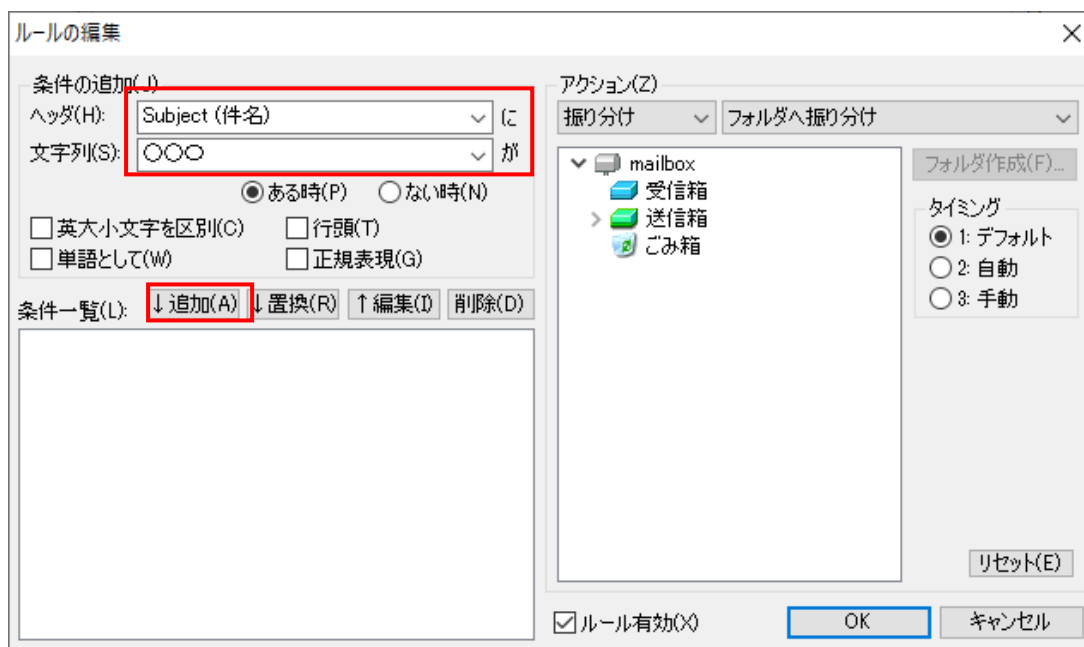
- ✓ ツールからフィルタリングマネージャを選択します。



- ✓ 新規ルールをクリックします

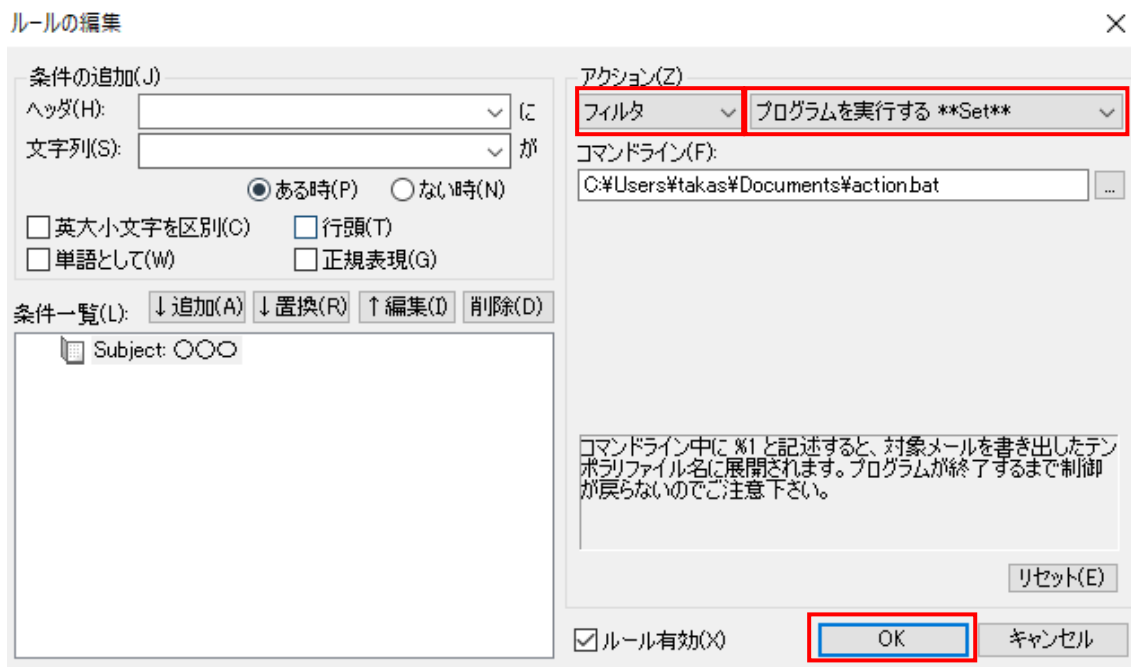


- ✓ ルールの編集で条件を入力し、追加をクリックします。





- ✓ アクションで「フィルタ」、「プログラムを実行する \*\*Set\*\*」を選択し、OK をクリックします。



- ✓ OK をクリックします

